令和６年度　学校自己評価（職員年度末評価）後期の取組と成果　来年度への課題(集計)

25長野県屋代高等学校・附属中学校

職員による年度末評価　A：十分　　B：概ね十分　　C：やや不十分　　D：不十分　　回答総数　58

評価項目		評価の観点	後期（今年度）の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
					A	B	C	D	指標
1	学校づくり	新しい学校づくりに向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育およびSSH先導的改革型Ⅱ 期のプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	新規SSH科目：STEAM探究、SSHチャレンジ、信大STEAM連携の運営をカリキュラムデザイン係とSSH係で連携して運営した。学年をまたいで不定期に進展していく3つのカリキュラムに関して、受講生徒の進展状況把握し、単位認定までを管理する仕組みを構築した。また、データサイエンスでは昨年度まで理数科のみが参加していた統計グラフコンクールに学年全体で取り組んだ。(カリキュラムデザイン係、SSH係)	文理融合型のSTEAM教育の充実を図るために、各教科に協力を依頼し、多様な学びを深めることができるようなカリキュラムを提案することができた。今年度STEAM探究は様々な分野の講座を10回開講し、各回の合計参加人数は200名を超えた。統計グラフコンクールでは参加生徒数が増えたこともあり12ある賞のうち1番である知事賞を含め7つが本校生徒であった。(カリキュラムデザイン係、SSH係)	22	34	2	0	83.7
			長野サイエンスコンソーシアム(NSC)事務局として学びの改革支援課と協力してオンラインミーティングを行い、加盟校の探究活動に関する困難点等を共有した。また、NSC校及び県外SSH校から参加グループを募り、課題研究研修会を実施したことで、教員の指導力向上とネットワークの構築を図った。(カリキュラムデザイン係、SSH係)	成果普及に向けたネットワーク構築のために、生徒間の探究的な学びの機会だけでなく、指導者の指導力育成や域外における指導者同士の交流の充実を目指すことができた。(カリキュラムデザイン係、SSH係)					
			2年理数科課題研究の深化を目指し、理数科委員会と協力して年間計画に変更を加えた。一つ目は本校OB大学生とのオンライン相談会を6月運営指導委員との相談会に変更した。二つ目は、昨年度は工学部実習の合間に行った工学部学生との相談会を10月に新設したNSC課題研究研修会でのポスター発表(大学教授等5名および県内外の引率高校教諭の助言者)に代えた。また、今年度から採用されたSSHコーディネーターの山本先生を介して、信州大学工学部の研究室から必要とする機材を借用するなど、大学研究室との連携を深めた。(カリキュラムデザイン係、SSH係)	昨年度と比較して、運営指導委員や信州大学各学部の大学教授など専門性の高い先生方から助言をもらう機会を増やすことができた。10月のポスター発表には屋代OBにも助言をもらいOBとの交流機会も確保できた。一方、新しい導入に力を入れた分、活動内容に、漏れ、重複などの齟齬があった。来年度は理数科委員会など関係する部署との連絡を密に行ない、業務改善により、生徒達にとってより良い環境を整えていきたい。(カリキュラムデザイン係、SSH係)					
			他校との交流（中学）	県外視察で来ていただいた学校との情報共有。本校からも視察等を計画したい。（中学）					
2	キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	従来の指導体制に基づき、補習(朝、放課後、土曜)・特編授業・模試準備や復習の徹底等、さらに基本的生活習慣の確立等の生徒の意識付けにも取り組んだ。(高3)	後期から共通テスト対策を取り入れたこともあり、間延びした感じになってしまった。学校生活に最後まで取り組み、受験に向かう集団作りをさらに考えていく必要がある。(高3)	23	33	2	0	84.1
			学年通信や学年集会等で早めの進路決定を呼びかけた。修学旅行後の受験シフトへの切り換えを促す進路講演会を実施したことで、生徒の意識は受験に向いてきた。(高2)	共通テストに対応できるように授業進度を考えながら、生徒の現状に即した指導法について研究を深めたい。(高2)					
			キャリア講演会を春・秋2回実施し、ジョブシャドウまたはオンライン講義を受講し、10月に学部別大学見学、文理選択や進路希望を考えるきっかけ作りとした。(高1)	学力差が大きい集団で各層に対して異なる指導が必要である。学習の動機づけを高める意味でも、早めの進路の意識付けをしていきたい。(高1)					
			「先輩の話を聞く会」や中3修学旅行での京都大学見学と本校OBとの交流、中2福祉体験などを通して、進路に対する意識を高めることができた。(中学)	京都大学での本校OBとの交流は生徒にとって良い刺激となったため、今後も継続していきたい。(中学)					
			全校人権講演会「ともに生きる」(中学)	有意義な講演会となった。(中学)					
			福祉体験学習(中2)	福祉体験を通じてキャリアにつながる様々な視点を獲得できた。(中2)					
		進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	節目節目で学年集会を開いてキャリア担当係より話をし、意識の向上に努めた。また学年通信を年間を通じて約30回発行して、必要な情報を共有できるようにした。(高3)	模試、共通テスト、個別試験、推薦入試に関する情報を細かく発信することができた。(高3)	23	30	5	0	82.8
			保護者向けには科目選択説明会を、生徒には学年集会により説明を行い、新課程の入試科目と3年次の選択科目を研究させた。三者懇談会や学年通信を用いて、進路実現に向けての情報を共有した。(高2)	多くの生徒は目標が定まってきているが、まだ進路の方向性がはっきり見えていない生徒がいるため、継続的に指導する。(高2)					
			保護者向けには文理選択説明会を、生徒には学年集会により説明を行い、文理選択について研究させた。三者懇談会や学年通信を用いて、進路実現に向けての情報を共有した。(高1)	10月に北陸方面の国公立大学を見学した。希望の学部を選択していくための経験として有意義であった。実施後のアンケートでも8割以上の生徒が満足感を示している。(高1)					
			学力推移調査の結果の見方や、学習方法について、ベネッセを講師に生徒向けの講演会を行った。(中学)	来年度は保護者向けに進路研修会を行い、保護者とも情報を共有していきたい。(中学)					

キャリア教育　次頁へ続く

評価項目		評価の観点	後期（今年度）の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
					A	B	C	D	指標
2	キャリア教育	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	科目を減らさず、6-8型で最後まで諦めずに学習に取り組む指導を行った。(高3)	例年と同様に、最後まで粘り強く学習に取り組み多くの生徒が6－8型で受験を行った。(高3)	22	33	3	0	83.2
			生徒には学年集会や科目選択説明会を通して志望校や学部を研究させた。教員側は各教科の指導の取り組み情報や考査毎の成績情報を学年で共有し指導に活用した。共通テストに実際にチャレンジすることで、今後つけるべき力を確認させた。(高2)	各教科の学力をバランス良くつけるために、教科間の連携や調整が一層必要となる。(高2)					
			学年集会、保護者説明会、キャリア講演会などを通して、大学や入試について知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。(高1)	学年集会や説明会のほかにも、タイミングを計りながら学年通信等もさらに活用して、進路に関する情報を生徒や家庭と共有していきたい。(高1)					
			学力推移調査を実施し、結果をもとに懇談等で今後の方針を確認した。(中学)	学習の方向性について、面談等で継続的に確認の場を設けていきたい。(中学)					
		学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	3年間模試分析を通して各科目の学力実態を把握し、授業をベースにしながら、目的別の補習や個人添削等でより個々に適した対処をしてきた。(高3)	生徒の心に寄り添う点にも配慮しつつ、学力の伸長をはかっていきたい。特に10月には模試が集中するので、配慮が必要である。(高3)	19	34	5	0	81.0
			考査や外部模試の結果、及び、面談週間をはじめとする個人面談により、集団と個々への指導を繰り返した。(高1,2)	各成績層に合わせた「学習内容」を充実させていく。(高1,2)					
			学力推移調査の結果をもとに、各教科において実態に合わせた指導を行った。(中学)	結果を引き続き分析し、指導の個別化と学習の個性化を図っていきたい。(中学)					
			スタディサポート及び全国模試の結果を踏まえて、個人面談・保護者懇談を実施した。(高1)	主催したベネッセ担当者を交えて、分析会議を3回実施した。(高1)					
			ベネッセ進路講演会の実施(10月)(中学)	来年度は保護者向けに進路研修会を行い、保護者とも情報を共有していきたい。(中学)					
3	教科指導 授業改善	探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるよう、ICT活用のための研究を進め、教科指導の研鑽に努めることができたか。	2回の校内職員研修・ICT研修会を実施し、ロイロノート・Canva・Google Forms・生成AIを使用した実践を共有した。また、教科横断的な学習や探究活動を推進するために、「学びのための特別公欠制度」を導入し、生徒の進路実現の向けた多種多様な学びを推進することができた。(カリキュラムデザイン係)	2回の校内職員研修会・ICT研修会は概ね好評であった。また、年2回の校内授業参観を通じて、教科にとらわれずに職員同士授業を見学する機会を設けることができた。来年度も生徒の進路実現に向けて、様々なコンテストや学びの機会を生徒に提供していく。(カリキュラムデザイン係)	22	31	5	0	82.3
			ロイロノートの利用を中3生から全校へ広げた。また職員研修会を行い、ロイロノートの活用について情報交換を行った。(中学)	活用方法について、教科内、中学校全体でさらに共有し、よりよい学びにつなげていく。(中学)					
4	生徒支援	個別に支援や配慮を必要とする生徒に対し適切な支援を施すことができたか。	週1回の係会を通して、支援の必要な生徒の実態把握と対応を考え、実施することができた。またテスト時の別室対応等、滞りなく実施することができた。(生徒支援係)	新たに対応することになった校内オンライン授業のやり方に苦慮したが、係内で検討を重ね実施することができた。今後さらに増加予想の支援生徒にどう対応していくかが課題となる。(生徒支援係)	28	24	6	0	84.5
			毎回の学年会で、生徒の状況の情報交換を行った。(高1)	学年会の資料で、それまでの経過を把握できるように蓄積した。(高1)					
			学校生活アンケート、アセス(中学)	アセス結果は担任だけでなく学年職員を中心に共有し指導に役立てることができた。(中学)					
			支援会議、家庭訪問、SC(中学)	支援会議、家庭訪問など適切な支援に努めることができた。(中学)					
	生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	交通立ち番を年に3回実施した。交通事故防止の注意喚起をしたり、道路交通法の改正の通知をクラスルームに流したりなどの対応をすることができた。(生徒支援係)	年間を通して交通立ち番を計画通り実施し、事故防止の注意喚起はできた。一方でヘルメット着用を更にアナウンスし、事故が起きた時の対応等も次年度以降伝えていきたい。(生徒支援係)	18	36	4	0	81.0
			交通安全街頭指導(中学)	学年通信、掲示物等を活用して呼びかけた。(中学)					
		SNSでの人権侵害、いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	SNS利用の仕方について、終業式等で注意喚起した。また気になるSNS投稿に関しては学年や係で個別注意や指導等対応をとることができた。(生徒支援係)	SNS利用に関しては注意喚起の効果もあったのか、今年度大きなトラブルはなかった。一方で、安全な学校生活を送るために、生徒が自ら考えていく機会をつくっていくことは、次年度以降の課題としたい。(生徒支援係)	20	35	3	0	82.3
			SNSとのかかわり方について職員による講演(中1)	生徒の実情に応じて他学年でも継続的に指導をしていく。(中1)					
	人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	R6年10月 31日(木)LHRでオンライン全校集会実施。講師-金尻 カズナさん(NPO法人ぱっぷす　理事長)　内容 「性暴力の被害の実態と相談支援」性犯罪者はグリーミングからセクストーションにおよび、「決して騙されない。自分は大丈夫」ではないことを学んだ。 R7年　1月30(木)高1、2年生LHR研修を各HRで実施。 内容　High　School Human Rights 42「オリンピック・パラリンピックと人権」について学ぶ。(人権・道徳教育係)	本年度は「性被害・性暴力」に対する職員の心構え。生徒に対しては、SNSを通したデジタル性暴力などの性的犯罪が多く、未成年の被害が後を絶たない実態を学んだ。「私は騙されない。自分は大丈夫」ではない。他人事と考えず、自分の身にも起こるかもしれない、特にSNSを使用するときは気をつけることを自覚させた。来年度も子どもを守る校内体制づくりを構築させたい。(人権・道徳教育係)	20	35	2	1	81.9
			道徳、学校生活アンケート、アセス(中学)	予防的な指導を行うとともに、事実把握後は即支援・指導にあたることができた。(中学)					

次頁へ続く

評価項目		評価の観点	後期（今年度）の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
					A	B	C	D	指標
5	情報発信	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	学校要覧作成(4月)、第1回授業公開(5月)、中学校説明会(6月)、中学校への学校訪問(6月)、学校案内パンフレット作成(7月)、中学生体験入学(7月)、第2回授業公開(8月) HPハトニワの更新（週1程度）、屋高の窓の発行（月1程度）、高校説明会（10月）、 ハトニワでは担当部署と連携しながらリアルタイムで発信することができた。（広報係）	ハトニワを通じた情報発信を継続していきたい。 中学校訪問では、好意的に受け止めてもらい個別に進路講話につながる学校も出てきた。来年度以降も継続していくことが望ましい。 本校の特色を伝えるツールとして、SNSを用いた情報発信の方法も模索したい。（広報係）	16	38	4	0	80.2
			文化祭・北陸研修旅行・クラスマッチ・スキースノーボード教室等の様子を、Classroomを通じて保護者に発信した。（高1）	文章だけではなく、生徒の活動の状況を伝える写真も掲載した。（高1）					
			附属中通信、学年通信、各種報道（中学）	鳩中サイトへの学年通信の掲示はやめ、全校でクラスルームを使って保護者に配信した。（中学）					
6	生徒会	質実剛健の気風を大切にして、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導・支援を行うことができたか。生徒一人ひとりが、生き生きとした活動をすることができたか。	生徒会選挙、第69期の役員選出、一斉委員会を経て、各委員会ごとに自主的な活動ができるよう支援した。役員会主体の学校交流については、具体的な実行プランまで決めたが、感染症流行によって直前に中止となったのは残念だった。また、班長会を通じて班室清掃を行い、クラブ活動の環境整備を行った。（生徒会係）	年度当初の生徒総会で、中学生や高校一年生から、多様な自然科学系の研究に取り組める形のクラブを求める意見が多く上がった。その要求に応えられる道を探りたい。また、前期班室清掃では、大量のゴミが出され、大掃除ができた反面、生徒会予備費を使っての不燃物処理が必要となってしまった。ゴミの分別、こまめな清掃が課題である。（生徒会係）	22	35	1	0	84.0
			第69回鳩祭にむけ、鳩祭正副係長3名を中心に準備を開始した。40の係に約100名の正副係長を配置し、1月現在3回の正副係長会を実施し、来年度鳩祭の構想と計画の具体化を議論し、鳩マニュアルVol.0に企画化・共有した。（生徒会係）	今年度はコロナ禍前、2019年鳩祭の規模を念頭に準備し、校内祭・一般公開を実施した。即応的な準備、雨天時、暑さ対策不十分な箇所もあったが、中学校・高校ともに文化祭を創造しようとする気概があった。来年度は、入念な計画、時間などへの内部規律を徹底し在校生も来場者も満足度の高い文化祭にしていくことが課題である。（生徒会係）					
			全校企画（レク、ブレスト）、クラスマッチ（中学）	生徒の願いを大切にしながら全校での活動を行うことができた。早期に計画を立てて進めたい。（中学）					
	校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	生徒会と連携し、引き続きワックスがけ、モップ交換を行う。また定期的に清掃用具の点検や補充並びに古紙のリサイクルを実施する。（厚生係）	可燃ごみ，柔らかできれいなプラスチック，硬いプラスチック等のごみの分別はしっかり行うことができた。トイレを清潔に保つため、トイレ清掃のマニュアルを作成したい。（厚生係）	11	35	11	0	73.7
			11月中に、落ち葉等の外清掃を重点的に行う。（厚生係）	各クラス2回ずつの「落ち葉掃き」の担当をしてもらったが，清掃時間だけでは、大量の落ち葉に対応できなかった。（厚生係）					
			年度当初のきまりを全校で確認したい。（中学）	各分担区で集中して清掃の取り組むことができた。					
			縦割り清掃を実施し、全校で校内美化に努めた。（中学）	手ぬぐい、無言など年度当初に確認した内容を丁寧に進めたい。（中学）					

指標は、A(4点)，B(3点)，C(2点)，D(1点) として最高100点となるように換算しました。　〔換算式〕 25×（4点×Aの数＋3点×Bの数＋2点×Cの数＋1点×Dの数）÷総数

以　　上